

医薬・医療関係

医薬品の承認を取得するためには、質の良い臨床試験を実施し、申請する医薬品の有効性および安全性に関する成績を収集することが必要です。このためには、生物統計、臨床薬理、薬事、メディカルライティングの各専門家を育成するとともに、こうした専門家を統括するプロジェクトリーダーを育成することが必要不可欠です。こうしたことから、グローバルに活躍できる新薬開発の専門家を育成する目的で、体系的に学べるコースを開設いたしました。新薬のプロジェクトリーダーを目指す方は、当コースへの参加をぜひご検討ください。

特 徴

- 新薬開発の専門家を体系的に育成するコースです。
- 臨床試験に関する最新の情報がわかります。

対 象

新入社員・臨床開発部門への転入者・モニターの方、新薬開発のプロジェクトリーダーを目指す方

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

大橋靖雄（東京大学大学院教授）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

未定

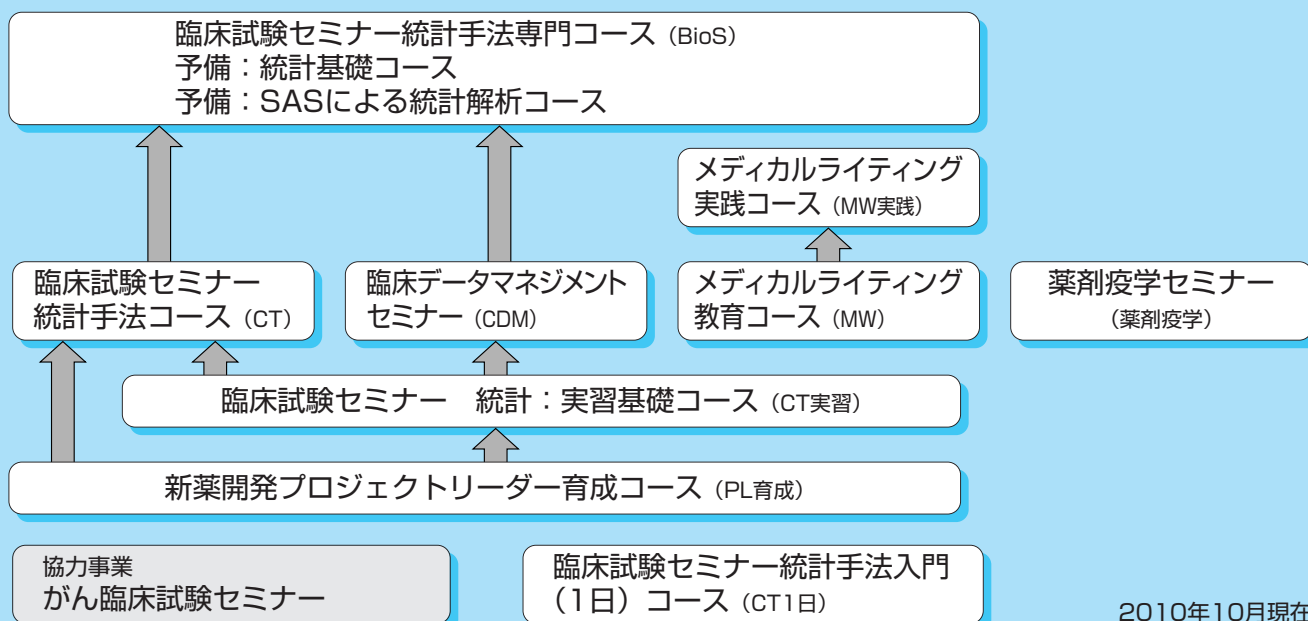
カリキュラム～10日間コース〈前年度実績〉

		午 前	午 後
第1月	第1日目	プロジェクトリーダーの役割と必要性 新医薬品開発の留意点	データの品質管理とデータマネジメント
	第2日目	わかりやすい統計学の基礎	わかりやすい薬物動態の基礎
第2月	第3日目	臨床試験の基本	探索段階の臨床試験 ファーマコメトリックス
	第4日目	米国、欧州での医薬品開発の留意点	開発戦略の作成
第3月	第5日目	臨床試験のデザイン：最近の傾向	プロトコルの作成方法
	第6日目	毒性試験成績の読み方	Adaptive Design Electronic Data Capture
第4月	第7日目	アジア共同治験 医薬品開発のプロジェクト管理	わかりやすい文章の書き方
	第8日目	演習	演習
第5月	第9日目	医薬品の安全性管理	開発段階の医薬品の安全性管理 国際共同開発の留意点
	第10日目	循環器領域の臨床試験の特徴と留意点	抗がん薬の臨床試験の特徴と留意点

回数	日 程
1	未 定

※参加費、日程は決まり次第ホームページへ掲載いたします。

医薬関連セミナー体系図



2010年10月現在

臨床試験方法論の最重要概念であるランダム化の理解を最低目標に、検定・推定の基礎や臨床疫学の方法論を学びます。当コースの理解を助けるために考案されたカードと、コンピュータシミュレーションによる実習を行います。上級の臨床試験セミナー統計手法コース（CT）、統計手法専門コース（BioS）に参加を検討されていて、まだ統計学の基礎的トレーニングを受けていない方には、まずこちらに参加くださるようお願いいたします。

特 徴

- 新しく工夫して作られたカードを用いてランダム化をわかりやすく教えます。
- 統計の基礎を固めたい方におすすめします。

対 象

統計・データマネジメント・市販後研究・開発に携わろうとする実務家および学生・臨床家

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

大橋靖雄（東京大学大学院教授）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

75,600円（一般）／67,200円（会員）
33,600円（大学、公的研究機関等）

カリキュラム～2日間コース（前年度実績）

第1日目 9:30～16:30	【講義】臨床試験のデザイン：統計的側面 (臨床試験のデザイン、特に、コントロールの重要性、ランダム化、エンドポイント、サンプルサイズ設計などについて、その統計的な考え方) カード実習1
第2日目 9:30～16:30	【講義】統計的仮説検定と信頼区間 (疾病の数を数える(疾病頻度の指標)、あるいは治療の効果を定量的に表現する(効果の指標)といった基礎的な概念を説明した後に、統計的仮説検定、および信頼区間の考え方) カード実習2

回数	日 程
1	7月25日(月)～26日(火)

臨床試験セミナー 統計手法コース

統計学の初歩からはじめて一応の輪郭を会得していただき、統計学と臨床試験、医学研究との関わりを理解していただくところに目標をおいております。新薬開発に直接、間接に携わっておられる企業、行政の方々、また医師・薬剤師、保健師、看護師の方々をご参加されることをおすすめいたします。

特 徴

- 短期間の実力養成をねらいとして、講義内容を厳選し、実例を交えて極力平易に講述します。
- 講義に使用するテキストは、担当講師書き下ろしの専用テキストを使用しています。
- 講師陣は、この分野の教育の重要性を痛感し、現在もその指導にあっている斯界の権威者で構成しています。
- コース内演習の時間を十分に設け、さらに宿題を解くことにより実践的知識が習得できるよう、また疑問を翌日に持ち越さないように配慮しています。

対 象

臨床試験の統計解析・データマネジメント、薬事・監査、非臨床試験、市販後調査(PMS)、医薬情報などに携わっている方、臨床医学の研究者で統計の勉強がしたい方

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

佐久間昭（東京医科歯科大学名誉教授）、大橋靖雄（東京大学大学院教授）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

136,500円（一般）／126,000円（会員）
63,000円（大学、公的研究機関等）

カリキュラム～7日間コース（前年度実績）

		午 前	午 後
第1月	第1日目 9:30～18:00	臨床試験概論	デザインング
	第2日目 9:30～16:30	統計的な考え方①	計量データの扱い①
	第3日目 9:30～16:30	統計的な考え方②	計量データの扱い②
第2月	第4日目 9:30～16:30	相関と回帰	計数データの扱い
	第5日目 9:30～16:30	中間解析・メタアナリシス	ノンパラ手法
第3月	第6日目 9:30～16:30	経時測定データ解析	生存時間解析
	第7日目 9:30～16:30	宿題発表、解説	Q & A、まとめ

回数	月	日 程
43	第1月	未 定
	第2月	
	第3月	

※日程は決まり次第ホームページへ掲載いたします。

医薬品開発に携わる企業においては、国際的にも通用する新薬開発と市販後研究のために、また臨床系の学会においては、国際的評価に足る研究を支える上でBiostatisticianを必要とする声は急速に高まりつつあります。当コースは、このような声に応えるために1989年に設立され、製薬企業において統計解析に携わる担当者を中心として既に約1,150名以上の修了者を送り出し、各方面から高い評価を得ております。

模擬臨床試験の総合実習を取り入れ、成績の総合評価による合格認定も実施しております。

製薬企業において統計部門に新たに配属された方々、現在実務に携わっているものもう一度基礎を固めたい方、他部門、他業種でも臨床統計のためのBiostatisticsを本格的に勉強されたい方に積極的におすすめいたします。

特徴

- 毎月2日間を1年間、計24日の長期にわたり体系だった統計解析専門家を養成します。
- 実際に模擬臨床試験を実施することにより、プランニング、プロトコル、SOP、調査票作成、データ管理、統計解析、報告書作成、発表などの一連の流れを体験いただけます。
- 模擬臨床試験の総合実習を取り入れ、成績の総合評価によって、修了証とは別に合格の認定を行います。

自前実習勉強会〈希望者のみ〉

当コースを受講前に、事前学習として数学の基礎を学ぶ勉強会を開催します。

【開催日程】2011年3月18日(金)午後～19日(土)

※詳細はホームページに掲載いたします。

予備コース〈希望者のみ〉

(1) SASによる統計解析コース

初心者を対象にSASの使用法を中心とした実習を行います。

(2) 統計基礎コース

講義を理解するための統計的思考方の基礎・線形代数の実習を中心に指導いたします。統計の基礎的知識に不安のある方は、当コースに参加することをおすすめいたします。

※日程は決まり次第ホームページへ掲載いたします。

※予備コースのみのご参加はご遠慮願います。

カリキュラム～24日間コース(2日間×12ヵ月)〈予定〉

主要内容

〔統計的推測理論〕

基礎統計：数式の運用、確率・統計に関する基礎概念の復習を兼ねた設問と回答。

統計的推測：統計的推測の基礎、母集団と標本、標本分布、推定、検定の基礎理念、最小二乗法、尤度と最尤法。

〔医学データ解析〕

2群間の比較： χ^2 乗検定とFisher直接確率検定、 t 検定、外れ値の影響と順位を用いる(Wilcoxon)検定、並べ替え検定、検定の前提とロバストネス。

分散分析1：実験計画法の基礎、実験法と分散分析、一元配置

多群の比較：検定の前提と分散安定化、対比の概念、用量反応の解析、多重比較。

分散分析2：主効果と交互作用、多因子要因実験と一部実験、分割型実験、共分散分析、経時データの解析。

カテゴリカルデータ解析：二項分布の母数の推測、独立性の検定、割合の差、割合の比、オッズ比、Fisherの直接法、交絡の調整、共通指標の推定、Mantel-Haenszel検定、一般化線形モデルの概要。

生存時間解析：打ち切りとハザードの概念、Kaplan-Meier法、ノンパラメトリック検定法、Cox回帰、応用場面の拡張。

回帰と相関：相関係数の解釈、最小二乗法、直線回帰とその拡張、残差と回帰診断、説明変数に誤差がある場合の問題。

経時データの解析：経時データのまとめ方、主要な統計量の選択、分散分析の応用、混合モデル入門。

共変量による調整と統計モデル：調整解析の意義、デザインベースドとモデルベースドの解析、交絡と交互作用、共分散分析、ロジスティックモデル、共変量の変数選択、プロトコルの記載、SASを用いた医学データ解析演習。

〔臨床試験方法論〕

臨床試験と生物統計学 臨床研究デザイン 医薬品開発における倫理的問題 安全性評価 ガイドラインについて サンプルサイズ設計 割り付け 中間評価と解析・メタアナリシス 評価尺度の信頼性と妥当性 QOL 評価 ベイズ統計学入門 薬物動態解析の基礎 共分散・調整 第1相試験の計画とクロスオーバー試験 抗悪性腫瘍の臨床開発と臨床薬理学

〔事例研究〕〔Q & A〕

〔総合実習〕食品や健康器具等を用いた模擬臨床試験(東大倫理委員会承認、モニタリング委員会(医師、弁護士、生物統計家)設置、医師常駐下)を実施することにより、コンセプト・プランニング、プロトコル作成、CRF作成、IC文書作成、データ収集、データ管理、統計解析、総括報告書作成、発表・質疑応答の一連の流れを体験する。

〔卒業試験〕最終月に開催。試験結果等に基づき、運営委員会でご可否を判定し、修了証とは別に合格証を発行しております。

対象

製薬企業・CRO：統計解析担当者、開発担当者、製販後調査担当者

受託機関：統計解析・製販後調査・開発に携わる担当者

大学、医学研究機関：臨床研究者

医薬品開発、製販後調査に関心を持つ統計家、医師、大学院生

会場

東京・日科技連 本部ビル

9月は東京近郊のホテルで1泊2日の合宿

講師

大橋靖雄(東京大学大学院教授・本セミナー運営委員長)他、斯界の権威ある研究者および企業の実務家が指導にあたります

参加費

714,000円(一般) / 682,500円(会員)

341,250円(大学、公的研究機関等)

予備コース〈希望者のみ〉

(1) SASによる統計解析コース 105,000円(一般・会員とも)

(2) 統計基礎コース 84,000円(一般・会員とも)

開催日(9月は合宿で行います)

月	日	程	月	日	程
第1月	4月21日(木)～22日(金)		第7月	10月20日(木)～21日(金)	
第2月	5月19日(木)～20日(金)		第8月	11月17日(木)～18日(金)	
第3月	6月23日(木)～24日(金)		第9月	12月15日(木)～16日(金)	
第4月	7月14日(木)～15日(金)		第10月	1月19日(木)～20日(金)	
第5月	8月25日(木)～26日(金)		第11月	2月23日(木)～24日(金)	
第6月	9月21日(水)～22日(木)		第12月	3月22日(木)～23日(金)	

新しい医薬品や医療機器の承認を早期に取得するためには、質の高い申請資料を規制当局に提出する必要があります。また、質の高い臨床試験を実施するためには、わかりやすいプロトコルや説明文書、治験薬概要書などを作成する必要があります。こうした文書を作成する専門家がメディカルライターであり、製薬企業や開発業務受託機関ではメディカルライターの必要性が高まっています。

メディカルライターの育成を目的として、2001年にメディカルライティング教育コースを開いたしました。当コースはこれまでに10回実施し、多くの参加者から好評をいただいておりますので、ぜひ参加をご検討ください。

特 徴

- 毎月2日間（木、金曜日を中心に）を半年間開催します。
- 海外からAMWAの講師などを招聘して、特論を組みます。
- 演習を組み、実際に書類を作成するコーナーを設けます。

対 象

- ・ 製薬会社の医薬品開発、申請業務に携わっている方
- ・ メディカルライティングの知識を必要とされている方

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

大橋靖雄（東京大学大学院教授）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

430,500円（一般）／399,000円（会員）
199,500円（大学、公的研究機関等）

カリキュラム～12日間コース（2日間×6ヵ月）〈前年度実績〉

	第1日目	第2日目
第1月 1日目 9:30～18:30 2日目 9:30～16:30	オリエンテーション、規制当局の視点 臨床試験の基本、懇親会	治験実施計画書の作成方法 わかりやすい説明文書の作成方法
第2月 9:30～16:30	図表の作成方法 治験総括報告書の作成方法 生物統計学入門(1)	CTD（臨床部分）の作成方法(1) わかりやすい文章の書き方(1)
第3月 9:30～16:30	CTD（臨床部分）の作成方法(2) 治験薬概要書の編集 論理的な文章の書き方 生物統計学入門(2)	医学英語の基礎 ドキュメント作成の技術 わかりやすい文章の書き方(2)
第4月 9:30～16:30	臨床試験結果の解析と解釈 臨床薬理試験成績の報告	Basic copy editing for non-native-speakers システムティックレビューと文献検索
第5月 9:30～16:30	How to write Introduction, Methods, Results, and Discussion section in health science articles	・ Summarizing data in medicine ・ Statistical errors in medical research articles ・ Guidelines for reporting clinical trials
第6月	【合宿】〈実習〉 於：東京近郊	

月	日 程
第1月	10月6日(木)～7日(金)
第2月	11月10日(木)～11日(金)
第3月	12月15日(木)～16日(金)
第4月	1月12日(木)～13日(金)
第5月	2月9日(木)～10日(金)
第6月	3月15日(木)～16日(金)

メディカルライティング実践コース

医薬品や医療機器の承認を早期に取得するうえで、メディカルライターは欠かすことのできない人材となっています。そういったことから、メディカルライティング教育コースの修了生を対象とした「メディカルライティング実践コース」を開設し、第4回目を開催するに至りました。これは2日間のコースで、演習と解説を通して実践的なライティング技術を修得できるようにプログラムを構成したものです。当コースでは、今後、医薬品の承認申請資料である Common Technical Document (CTD) を題材とした演習を数回に分けて開催する予定で、その第一弾として、前回は「CTD 2.5.1 製品開発の根拠」を題材とした演習および講義を開催しました。

当コースの開催には、特定非営利活動法人日本メディカルライター協会も協賛しています。メディカルライティング教育コースを修了した方、日本メディカルライター協会の会員の方は、ぜひ参加をご検討ください。

特 徴

- カリキュラムは演習が中心で、実際に必要な技術が修得できます。
- 演習が中心となるため、指導講師が密接に指導できる定員を設けています。

対 象

メディカルライティング教育コースの修了者（教育コース修了者以外に、日本メディカルライター協会の会員から参加者を募集いたします。この場合は、教育コース修了者と同等の知識および経験を有することを参加条件とします）
※対象者を変更する場合がございます

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

林 健一（アラメディック株代表取締役）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

未定

カリキュラム～2日間コース 〈前年度実績〉

	午 前	午 後
第1日目 9:30～18:30	演習1：どちらのCTD 2.5.1がわかりやすいですか(個人演習)、演習1の解説 演習2：わかりにくいCTD 2.5.1を改訂する(グループ演習)	演習2の成果物に対する討議、演習2の解説 演習3：情報と情報をつなぐ(個人演習)、演習3の解説 演習4：情報がつながるように、CTD 2.5.1を改訂する 懇親会
第2日目 9:30～16:30	演習5：Unmet Clinical Needsを明確にする(グループ演習) 演習5の成果物に対する討議、演習5の解説	演習6：臨床開発計画の簡潔な記述(グループ演習)(CTD 2.5.1に記載された臨床開発計画を改訂する) 演習6の成果物に対する討議、講評

回数	日 程
4	未 定

※参加費、日程は決まり次第ホームページへ掲載いたします。

データマネジメント業務の効率化・標準化そして質向上を目指して、本質的に何をしなければならないのかを講義と演習を通じて考え、身に付けていただくことを目標にしています。データマネジメントの仕事に関わりだした初心者の方が、データマネジメントの全体像を理解し、これからの仕事に役立てていただける内容となっています。皆様のご参加をお待ちしております。

特 徴

- 合宿制で短期間の集中型セミナーです。
- 担当講師書き下ろしの資料を使用します。
- グループ演習の時間を十分に設けることにより、実践的知識が習得できます。

回数	日 程
9	未 定

※日程は決まり次第ホームページへ掲載いたします。

対 象

- ・データマネジメントの仕事に携わる初心者の方（データマネジメントの仕事に関わり出して、半年以上の経験を持ち、かつICH-GCPの基本的な考えを理解している方）
- ・臨床試験に携わるコーディネータ、臨床試験家
- ・臨床試験に関心を持つ病院、大学、研究機関の医師、看護師、研究者

会 場

軽井沢プリンスホテル

講 師

大橋靖雄（東京大学大学院教授）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

267,750円（一般）／252,000円（会員）
161,000円（大学・病院・研究機関等）
*宿泊費（2泊）、食事代（朝2・昼3・夕2）含む

カリキュラム～2泊3日コース<前年度実績>

	午 前	午 後
第1日目 9:50～18:50	医薬品開発とDMの位置付けと品質保証	CRF設計(1)、CRF設計(2)、CRF事例の研究 CDMにおける情報技術（講義及びデモンストレーション） 演習の説明、グループ内での分担決定、 演習(1) チェックリストの作成
第2日目 8:30～19:00	データマネジメント計画書と報告書、チェックリスト、ローカルデータマネジメント CRFレビューとDCF(1)、 CRFレビューとDCF(2)	Q&A、フリーディスカッション、 データ処理（コーディング、辞書、固定、解析用データセット） データレビュー、演習(2) データ確認
第3日目 8:30～16:30	演習(3) DCF作成、 演習(4) 改善策の検討	フィードバック&討議（Q&A含む）

臨床試験セミナー 統計手法入門（1日）コース

医師・CRC・データマネージャあるいはモニターとして臨床試験に関わっていて、統計の概念がよく理解できない、一度は基礎から勉強をしたいと考えている初心者の方を対象としています。話題を絞り、臨床試験に対する統計の最大の貢献であるランダム化を中心にバイアスや交路、p値といった基礎概念を実習も交えて学習し、本質の理解を中心に日頃なぜ？と感じていることに答えを見いだせるようなコースです。

特 徴

- 短期集中型のセミナーです。
- 統計の概念を基礎から勉強できます。
- 実習を交え、わかりやすく理解できます。

回数	日 程
1	未 定

※日程は決まり次第ホームページへ掲載いたします。

対 象

臨床開発に携わる予定の未経験者、または初心者の方

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

大橋靖雄（東京大学大学院教授）他、斯界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

- (1)病院・公的研究機関のCRC・データマネージャ、学生/大学院生（社会人は除く）：10,500円
- (2)SMO・CROのCRC・データマネージャ・モニター、製薬会社社員：21,000円

カリキュラム～1日コース<前年度実績>

10:30～18:00

午 前	午 後
講義：臨床試験における統計学入門「ランダム化とp値」	実習：カードによるランダム化実習 臨床試験のデザイン：最近の話題から（標的集団を考慮した検証など、最近話題の臨床試験デザインに関する講演も行います） Q&A

医薬品の開発・審査・市販後の調査に薬剤疫学の果たすべき役割が増えています。医薬品の安全性の評価やリスク管理の一環として、介入的な臨床試験とともに医療行為に介入しない観察的な疫学研究を適切に実施することがますます重要になりつつあります。疫学的調査では、交絡やバイアスの可能性をきちんと考慮した上で、調査を計画・実施・解析・評価する必要があります。医薬品の開発・審査・市販後の調査に関与する方にとって、薬剤疫学の概念は避けて通れないものとなっています。当セミナーは、薬剤疫学の系統的な学習とともに、薬剤経済学の基礎の修得ができるよう配慮されています。また、海外講師の特別講義によって最新の情報を得ることもできます。企業で医薬品の市販後調査を担当する方々、大学等の教育機関で臨床薬学・社会薬学を担当する方々など、当セミナーへのご参加をご検討ください。

特 徴

- 薬剤疫学と薬剤経済学の基本的な考え方が学べます。
- 毎月2日間×半年間（予備コースを含むと7ヵ月間）の開催で、基礎から体系だてて学べます。
- データベースのない日本で可能な薬剤疫学的調査のデザインの実際ができるようになることを目標とします。
- 海外から特別講師を招いての講演がもりこまれ、最新の情報がわかります。

対 象

市販後の調査・試験をICH-E2Eガイドラインに沿って実施することを計画している企業実務家、平成18年度から6年制になった薬学系教育機関で臨床薬学・社会薬学を担当する教官、その他、薬剤疫学に関心を持つ製薬企業・CROの社員、アカデミア

会 場

東京・日科技連 本部ビル

講 師

久保田潔（東京大学大学院教授）他、欺界の権威ある経験豊富な講師が指導にあたります

参加費

430,500円（一般）／399,000円（会員）
 199,500円（大学・公的研究機関等）
 予備コース 31,500円（一般・会員とも）
 予備コースのみ参加 36,750円（一般・会員とも）

カリキュラム～12日間コース(2日間×6ヵ月)〈前年度実績〉

予 備	予備コース：統計・疫学の基礎（希望者のみ）
第1月	コホート研究、ハイブリッドデザイン セルフ・コントロール・スタディ、シグナル検出、バイアス・交絡などの整理 薬剤疫学研究文献の批判的吟味
第2月	リスクグループと効果の修飾、メタアナリシス、コホート研究・症例対照研究の解析、企業における薬剤疫学研究
第3月	薬剤経済学：WHOの教育コースなども参考に、基礎的概念の学習から文献の批判的吟味までを行う
第4月	薬剤疫学研究のデザイン、リスク管理入門、Practical Epidemiology、背景発現率と比較対照群、観察研究の解析の最近の進歩
第5月	Safety Specificationから研究デザインへ 架空の事例をもとに日本で実行可能な研究をデザインする
第6月	特別講義：特別講師 Dr. Kin-Wei Arnold Chan（Department of Epidemiology, Harvard School of Public Health）

月	日 程
予 備	5月16日(月)～17日(火)
第1月	6月6日(月)～7日(火)
第2月	7月11日(月)～12日(火)
第3月	8月1日(月)～2日(火)
第4月	9月5日(月)～6日(火)
第5月	10月17日(月)～18日(火)
第6月	11月14日(月)～15日(火)

- * 1泊2日の合宿含む（於：東京近郊）
- * 協賛：日本薬剤疫学会
- * 協力：NPO日本医薬品安全性研究ユニット



表彰制度のご案内

エクセレントカンパニーをめざして!

～デミング賞、日本品質管理賞、日本品質奨励賞に挑戦することによって企業、組織の体質の強化がはかれます～

デミング賞

デミング賞は、戦後の日本に統計的品質管理を普及し、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げ、大きな礎を築いた故William Edwards Deming博士の業績を記念して、1951年に創設されたTQM（総合的品質管理）に関する世界で最も権威ある賞です。賞の種類には、「本賞」「普及・推進功労賞（海外）」「実施賞」があります。



2010年までの受賞者数(延)本賞:73名、普及・推進功労賞(海外):1名、実施賞:220組織(海外35組織含む)

※デミング賞実施賞とデミング賞事務所表彰は2010年から一本化され、かつ一定の条件を満たせば、全社、事業部、事業所以外の区分でも業種、規模の大小、公・私、国内・海外、組織の一部・全体を問わずに応募できるようになりました。

日本品質管理賞

日本品質管理賞は、1969年10月東京で開催した世界初の「品質管理国際会議」を記念して創設された賞であり、デミング賞実施賞または日本品質管理賞を受賞し、そのレベルを3年以上維持、向上してきた企業（事業部を含む）が受賞対象となります。



2010年度までの受賞組織数 | 延21組織

日本品質奨励賞

日本品質奨励賞は、日科技連の創立50周年を記念して2000年に創設した賞で、わが国産業の現状を踏まえ、この賞に挑戦することにより、その組織にふさわしいTQMの実践を通じて、厳しい国際競争に勝ち抜く優れた企業が輩出することを目的としています。特にこの賞は、ISO9000取得後、本格的にTQMを推進される企業のためのデミング賞挑戦への一里塚として位置づけており、「TQM奨励賞」と「品質革新賞」の2種類があります。



日本品質奨励賞

TQM奨励賞

品質の改善やその継続、レベルの向上をはかっており、将来デミング賞へ挑戦できるレベルまで発展する可能性のある組織を対象とする。

2010年度までの受賞組織数 | 30件

品質革新賞

広く活用できる優れた品質マネジメント技法を開発した組織のグループ、部門、事業部または、個人を対象とする。

2010年度までの受賞組織数 | 15件

お問合せ先

デミング賞・日本品質管理賞(デミング賞委員会事務局)
TEL:03-5378-1212 FAX:03-5378-9842
E-mail: demingprize@juse.or.jp

日本品質奨励賞
TEL:03-5378-1215 FAX:03-5378-9842
E-mail: tqmsemi@juse.or.jp